

北九州市の人口動向

福岡・関東流出を補う国外流入

■ はじめに

北橋市長は、4期目の目標の一つに「人口の社会動態プラスを達成」をあげています。北橋市政の4期目の1年が経ちました。人口動向はどうだったのでしょうか。北九州市の社会動態をみてみます。

2019年には、北九州市人口の社会動態は、転入者45,822人に対し、転出者が46,522人となり、700人の転出超過になりました。2018年の△1,035人より、減少幅が縮小しています。

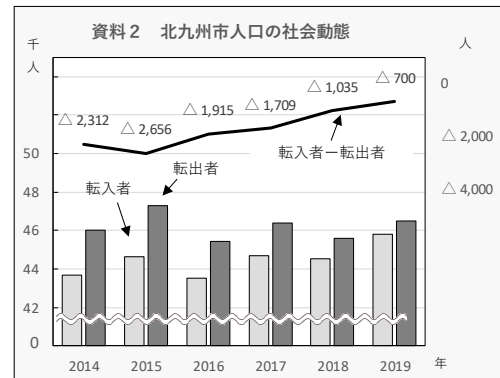
資料は、県内市町村の住民基本台帳による移動状況を、県が集計した『福岡県人口移動調査』です。同調査では、「転入者」及び「転出者」を年齢別・移動方向性別に集計しています。これを国内、国外、県内移動にわけて整理し、北九州市の社会動態を概観します。

資料1 北九州市人口の社会動態

(単位：人)

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
転入者	43,689	44,634	43,526	44,673	44,545	45,822
転出者	46,001	47,290	45,441	46,382	45,580	46,522
差	△ 2,312	△ 2,656	△ 1,915	△ 1,709	△ 1,035	△ 700

注) 転入者及び転出者には、新旧住所地不明者及び職権記載者、削除者を含む。



■ 県外移動

2019年に、福岡県外の都道府県から北九州市へ転入した者は15,038人でした。一方、北九州市から他都道府県への転出者は、15,833人でした。転入者から転出者を引いた転入超過数は△795人であり、福岡県外の都道府県との間では、転出超過が続いています。

移動者は「九州」や「南関東」、「中国」との間で多く、それぞれとの移動状況をみてみます。

【九州7県】 転入者5,322人に対し、転出者が4,982人と、340人の転入超過になっています。2018年もプラス585人であり、北九州市の転入超過が続いています。

資料3 北九州市人口の国内移動

(単位：人)

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
転入者	14,418	14,560	14,324	14,935	15,200	15,038
転出者	15,721	16,369	15,600	16,089	15,686	15,833
差	△ 1,303	△ 1,809	△ 1,276	△ 1,154	△ 486	△ 795

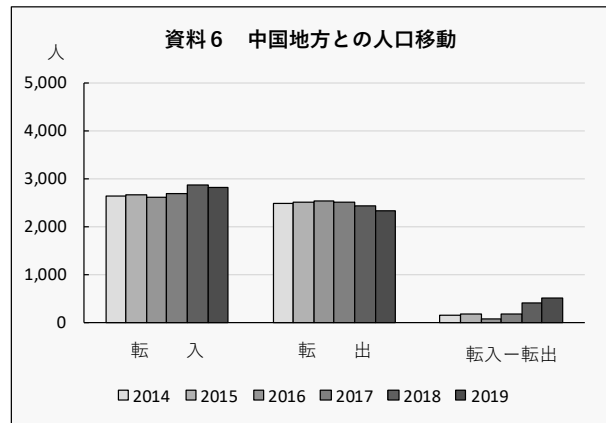
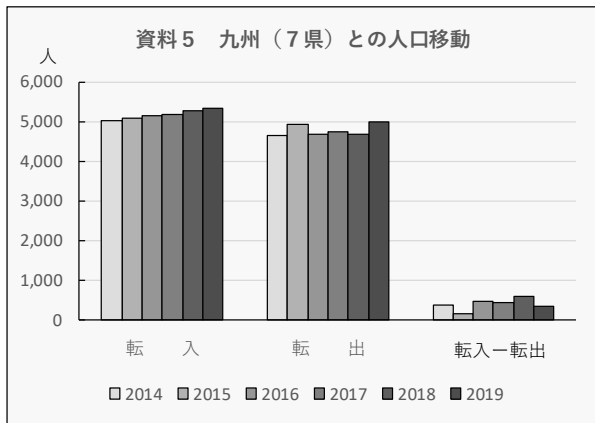
注) 国外移動及び県内移動者を含まない。

資料4 北九州市人口の地域間移動 (2019年)

(単位：人)

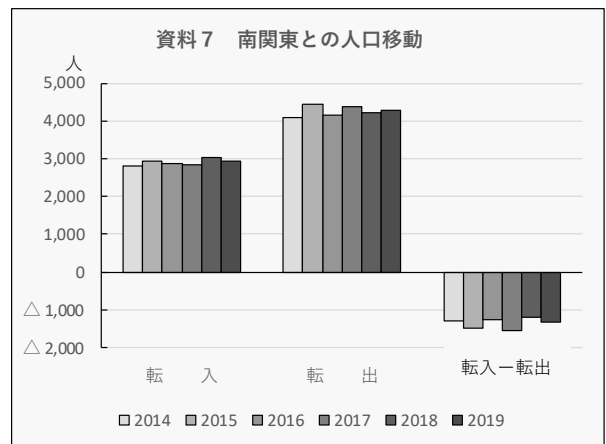
	総計	北海道	東北	北関東・甲信	南関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
転入者	15,038	202	237	399	2,951	185	957	1,633	2,815	337	5,322
転出者	15,833	186	176	396	4,267	156	1,054	1,964	2,313	339	4,982
差	△ 795	16	61	3	△ 1,316	29	△ 97	△ 331	502	△ 2	340

注) 九州は佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県の7県である。



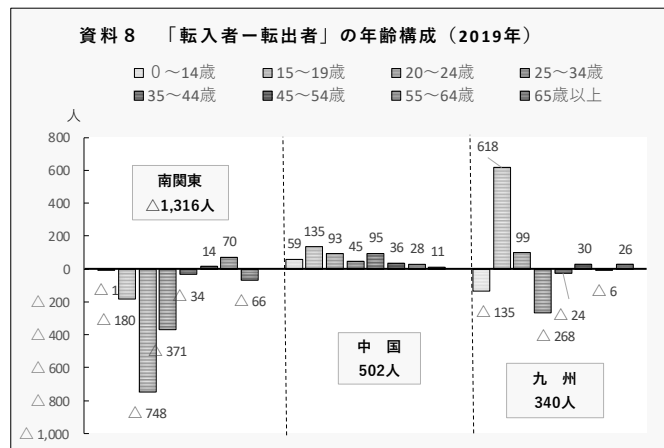
【中国地方】 転入者 2,815 人に対し、転出者 2,313 人で、502 人の転入超過になっています。転入超過数は増加傾向にあり、2019 年には転入超過が最も多い地方になっています。北九州市に隣接する山口県との間で、転入超過が多くなっているためです。山口県とは 2018 年は 474 人、2019 年も 449 人転入超過になっています。

【東京都・神奈川県など南関東】 「南関東」は、以前より、流出人口が最も多い地方です。2019 年は、転入者 2,951 人に対し、転出者が 4,267 人と多く、1,316 人の転出超過になっています。2018 年も流出数が 1,182 人であり、北九州市から首都圏への流出超過が続いています。



【年齢階層別】 転入（出）超過数を年齢別にみてみます。「九州」7 県からの転入超過は、15～19 歳が 618 人、20～24 歳が 99 人などで流入数が多くなっています。また、25～34 歳では 264 人の転出超過になっています。

一方、首都圏を含む「南関東」への転出超過は、15～19 歳が 180 人、20～24 歳 748 人、25～34 歳 371 人などで、流出数が多くなっています。



これらのことから、北九州市は、①九州各県から 15～19 歳の年齢層で流入が多くなっていること、②首都圏や九州各県へは、20 代を中心とする年齢層が流出していることがわかります。また、③「中国」地方とは、突出する年齢層はなく、各年齢層で流入超過になっています。

■ 国外移動

2019 年に、日本国外から北九州市へ転入した者は 3,652 人でした。一方、北九州市から国外への転出者は 1,472 人でした。転入者から転出者を引いた転入超過数は 2,090 人であり、国外との移動は、転

入超過になっています。但し、『福岡県人口移動調査』の統計表では、移動者の転入前・転出先の住所地に「不詳・その他」の数が多いことから、国外移動数には疑問がのこります。ついては、北九州市における在留外国人の動向を、別の統計調査でみてみます。

資料9 北九州市人口の国外移動（参考）

（単位：人）

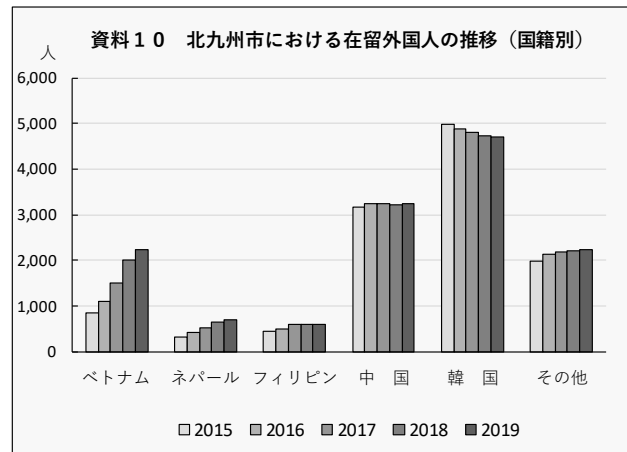
	2014	2015	2016	2017	2018	2019
転入者	747	769	809	3,178	3,157	3,562
転出者	1,208	1,201	1,231	1,370	1,399	1,472
差	△ 461	△ 432	△ 422	1,808	1,758	2,090

法務省「在留外国人統計」では、北九州市内の在留外国人は、2015年には11,758人でしたが、2019年には13,717人となり、この間に1,959人増えています。

【国籍別】 在留外国人を国籍別にみると、2019年には、韓国4,706人（構成比34.3%）、中国3,252人（同23.7%）、ベトナム2,239人（同16.3%）などで多くなっています。

増加数（2015年～2019年）では、ベトナムが1,393人増、ネパール376人増、フィリピン149人増と、これら開発途上国で多くなっています。

福岡県では「技能実習」や「留学」、「技術・人文知識・国際業務」などを在留目的とする外国人が増えています。北九州市でも、ベトナムやネパール、フィリピンなどから、技能実習や留学を目的とする、在留外国人が増えていることが推察されます。



■ 県内移動

人口移動は国外や県外とだけではありません。福岡県内の他市町村との移動もあります。

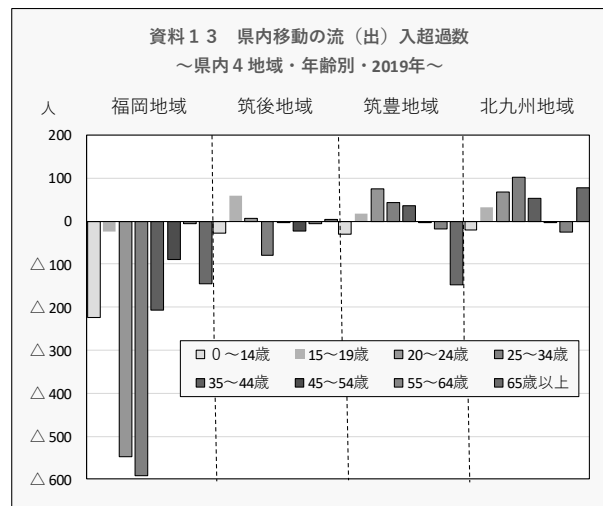
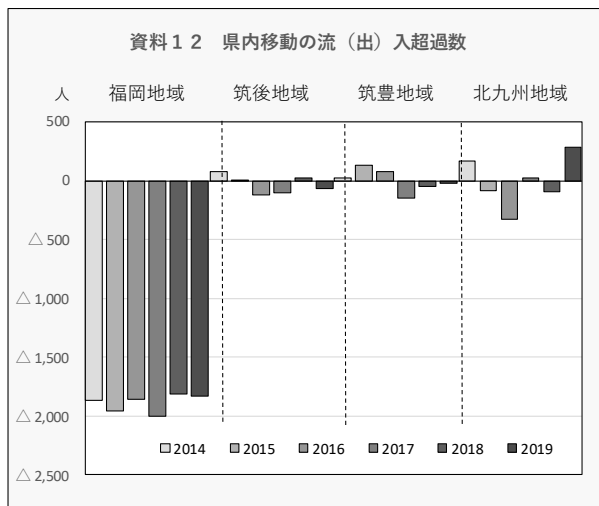
2019年に、福岡県内から北九州市への転入者は10,768人でした。一方、転出者は12,414人でした。転入者から転出者を引いた転出超過数は1,646人でした。福岡県内の他市町村とは、

資料11 北九州市人口の県内移動

（単位：人）

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
転入者	10,177	10,576	9,946	10,113	10,174	10,768
転出者	11,778	12,484	12,180	12,337	12,120	12,414
差	△ 1,601	△ 1,908	△ 2,234	△ 2,224	△ 1,946	△ 1,646

注）北九州市内の移動者を含まない。



大幅な転出超過が続いています。

移動者の多い「福岡地域」や「北九州地域」の移動状況をみてみます。

【福岡地域】 福岡市を中心とする「福岡地域」は、以前より転出超過数が多い地域です。2019年は、転入者5,091人に対し、転出者が6,925人であり、1,834人の転出超過です。その内、1,333人が福岡市への転出超過になっています。

【北九州地域】 北九州市の周辺地域とは、転入者3,376人に対し、転出者3,096人で、280人の転入超過になっています。2017年は97人の転出超過でした。2019年が増加になったのは、北九州市に隣接する中間市や行橋市、京都郡などからの転入者が増えたためです。

【年齢階層別】 転入（出）超過数を年齢別にみてみます。福岡市を中心とする「福岡地域」への転出超過は、20～24歳548人、25～34歳591人など、20代の年齢層を中心に流出しています。「北九州地域」とは、突出する年齢層はなく、各年齢層で流入超過になっています。

資料14 県内4地域との流入超過数の推移

(単位：人)

		2014	2015	2016	2017	2018	2019
福岡地域	転入	4,635	4,905	4,682	4,751	4,839	5,091
	転出	6,505	6,859	6,545	6,750	6,656	6,925
	差	△1,870	△1,954	△1,863	△1,999	△1,817	△1,834
福岡市	転入	2,982	3,153	3,048	3,136	3,105	3,347
	転出	4,235	4,593	4,294	4,477	4,434	4,680
	差	△1,253	△1,440	△1,246	△1,341	△1,329	△1,333
筑後地域	転入	681	762	641	729	730	737
	転出	603	760	758	833	710	803
	差	78	2	△117	△104	20	△66
筑豊地域	転入	1,521	1,620	1,529	1,383	1,465	1,564
	転出	1,498	1,490	1,451	1,530	1,517	1,590
	差	23	130	78	△147	△52	△26
北九州地域	転入	3,340	3,289	3,094	3,250	3,140	3,376
	転出	3,172	3,375	3,426	3,224	3,237	3,096
	差	168	△86	△332	26	△97	280

注) 北九州地域に北九州市は含まない。

■ おわりに

北九州市の人口動態は、以前から、首都圏や福岡地域へ大幅な転出超過になっていました。その状況は今も続いています。2019年には南関東へ1,316人、福岡地域へは1,834人の転出超過になりました。年齢階層別には、20歳代を中心とする若い世代の流出です。

一方で、最近では、ベトナム、ネパール、フィリピンなど国外から、転入者が増えています。この流入が、最近の北九州市の社会動態の減少幅を少なくしています。

また、2019年には、北九州市の周辺地域（県内や山口県）との移動で、転入が転出を上回ったこともあり、昨年の社会動態は700人の減少に留まりました。

これが、北橋市政に因るものかはわかりませんが、人口減少が続く北九州市で、社会動態の減少数が小さくなることは、基本的には良いことです。今後、北九州市の社会動態がプラスになることを期待します。

